

第4学年 国語科学習指導案

指導者 山崎 美幸

1 日 時 平成26年10月29日(水) 5校時

2 学年・学級 4年1組(男子14名 女子14名 計28名)

3 単元名 「場面の様子を想像して読む」
『ごんぎつね』

4 単元の目標

- 登場人物の行動や場面の展開に興味を持ちながら読み進め、疑問に思ったことを解決しようとしている。(興味・関心)
- 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気づくことができる。(聞くこと・話すこと)
- 叙述をもとに登場人物の気持ちや自分の考えを書くことができる。(書くこと)
- 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読むことができる。(読むこと)
- 表現したり理解したりするために必要な語句を増し、語句は性格や役割の上で類別があることを理解することができる。(知識・理解)
- 物語を読み、感想を述べ合うことができる。(言語活動)

5 単元について

本学級は、休み時間も物語を読もうと本を手にする児童が多い。読書をする中でこれまで様々な物語に出会ってきている。「やい、とかげ」(教育出版4上)では、積極的に主人公のぼくの気持ちを想像し、考えを交流してきた。

また、「一つの花」(教育出版4上)では、書きこみを使い、場面の様子や登場人物の気持ちを書くことに積極的に楽しみながら取り組み、自分の考えや思いを文章にまとめることができるようになってきた。しかし、書きこんだ事をもとにペアトークで話をする事には積極的に取り組める児童が多いが、全体の場で自信を持って発言できる児童は少ない。また、授業の中で友だちが自分と違う意見を発表すると、それに対して否定的な言葉を投げかけ、考えの違いを認められない児童もいる。相手や場に応じた言葉遣いで話したり、自分の考えと似たところ・違うところを比べて感想を持ったりして聞くことも、本学級の課題であると考えます。

本教材は、起承転結が明確なストーリー構成となっており、登場人物の心の動きが読み

取りやすくなっている。また、六場面ではごんが兵十に撃たれてしまうという悲しい結末を迎え、子どもたちの心に深く残る。この物語は、一場面から五場面までがごんの視点で書かれており、子どもたちは自然とごんの気持ちに寄り添い、物語を読み深めていこう。最後の六場面だけが兵十の視点（一部分を除いて）で書かれている。ごんを撃ってしまった兵十の気持ちを想像し、立場が違う二人の思いを考えることで、悲しさや感動をより深く伝えることができる手法がとられた作品である。

本単元の学習では、一人ひとりが自分の感想を持つことをねらいとしている。これから高学年に向かうこの時期の児童にとって、自分の思いをしっかりと持ち、それぞれの感じ方には違いがあることを認識することも大切である。そのためには、自分の思いをしっかりとみんなに伝え共有することが求められる。そして、思いのさらなる深まりにつなげていくような学習活動の展開が必要である。本単元の学習をとおして、自分の感想をきちんと持ち、他者との感じ方の違いを理解しながら、自分の気持ちを明確に表現していくことができるような力を養いたい。

指導にあたり、『ごんと兵十はわかりあえたか』という単元を貫くテーマを設定した。第1次では「ごんぎつね」の話の流れを捉えさせ、初発の感想を書かせる。また、各場面の出来事の位置づけや意味を明確にさせる為に、挿絵も提示しながら各場面のタイトルを考え、作品のあらすじを簡潔にまとめさせる。そして、ごんの住んでいた場所はどんな所であるか、情景描写から想像しながら全場面を読み取り、「ごんマップ」を作成させることで、叙述から読み取れる力がつくだろう。

第2次では、場面ごとに情景描写・人物描写に着目し、書きこみプリントに自分の考えや思いを書かせる。最初は、一人ぼっちで過ごしていた「いたずらぎつね」という設定である。ここをしっかりと読み取り、村人から見たごんは、困ったことをするきつねだったということをおさえる。また、兵十のおっかあの死を知り、自分のしてきた行為を反省するごんを読みとる。この時、今までのごんと穴の中で考えたごんの違いを考え、そこから心情を考えたり想像したりしながら「ごん日記」を書かせる。また、次の場面では、「つぐない」から「つくす」ごんの行動や心情の変化を読み取り、ごん日記を書かせる。最後の場面では、ごんに銃を向けた兵十の心情の変化を読み取り、テーマである『ごんと兵十はわかりあえたか』について話し合わせる。兵十の気持ちが変わった場面や訳を確認し、心情の変化に目を向けて読む力をつけさせたい。

第3次に、登場人物について素晴らしいと思った表現や読みとったことについて感想を書き、発表し合うことで一人ひとりの感じ方の違いがあることにも気づかせたい。また、心を通い合わせることは難しいことだからこそ大切にしていかなければならないことにも気づいてもらいたい。

6 単元における評価規準

関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	知識・理解	言語事項
・登場人物の行動や場面の展開に興味を持ちながら読み進め、疑問に思ったことを解決しようとしている。	・文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気づく。	・叙述をもとに登場人物の気持ちや自分の考えを書くことができる。	・場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述をもとに想像して読んでいる。	・表現したり理解したりするために必要な語句を増し、語句は性格や役割の上で類別があることを理解している。	・物語を読み、感想を述べ合っている。

7 指導計画（全11時間）

第1次 「ごんぎつね」のあらすじをつかみ、感想を書こう。〔3時間〕

- ・全文を通読し、読んだ感想や問いを書く。(1)
- ・意味調べをし、意味調べ発表会をする。(1)
- ・「ごんと兵十はわかりあえたか」というテーマを設定し、話の順序通りに教科書の挿絵を並び替え、五つの場面にタイトルをつける。(1)

第2次 各場面の課題について話し合おう。〔6時間〕

- ・時や場所・人物の設定を確認し、ごんぎつねの舞台を想像しながら情景描写を読み取り、ごんマップをかく。(第1場面)(1)
- ・村の小川でいたずらをする場面を音読し、ごんの性格を読み取りごん日記を書く。
(第1場面)(1)
- ・葬式の場面を音読し、ごんの後悔する気持ちを読み取り、ごん日記を書く。
(第2場面)(1)(本時)
- ・いわしを盗む場面を音読し、つぐないからつくすごんに変化する気持ちを読み取り、ごん日記を書く。(第3場面)(1)
- ・兵十と加助の会話を聞く場面を音読し、つぐないが兵十に理解されないごんの気持ちを読み取り、ごん日記を書く。(第4・5場面)(1)
- ・ごんが撃たれる場面を音読し、ごんと兵十の心情を読み取り、ごんと兵十はわかりあえたかについて考え話し合う。(第6場面)(1)

第3次 各場面の要約を見て、気がついたことを発表する。〔2時間〕

- ・全体を通読し、感想を書く(1)
- ・感想を発表し合い、お互いの意見の違いを聞き合う。(1)

8 本時の目標

葬式の場面を音読し、ごんの後悔する気持ちを読み取り、ごん日記を書く。

9 本時の授業展開

学習内容	指導上の留意点	評価規準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 場面を振り返る。 ・ 本時のめあてを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までの学習を振り返る。 ・ 大テーマ「ごんと兵十はわかりあえたか」を提示する。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> ごんの心はどううつり変わったか考えよう </div>		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 場面 (p 3 2 7 行目～ p 3 4 1 1 行目) を音読する。 ・ 6 つのごんの独り言の中で、ごんの心が一番大きく変わった所はどれか考える。 ふふん なんだろう ああ葬式だ 兵十の家の ははん 兵十のおっかあは・・・ちよっあんないたずらを・・・ ・ ごんが「しまった」と気づいた瞬間はどこか考える。 ○トリプルで意見を交流する。 ○全体で交流する。 ・ ごん日記を書き、発表する。 ・ 本時のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の学習場面を想像しながら一人で音読させる。 ・ ごんが、何を見て気づいたのか叙述から読み取らせる。 ・ ごんの様子や行動の理由を考えさせ、村人との関係に着目させる。 ・ 色 (赤・白) が使われている情景描写に着目させ、対比することで兵十のおっかあを失った悲しみや様子を読み取らせる。 ・ どうしてごんの気持ちが大きく変わったのかを考えさせ、流れをおさえる。 ・ 自分の読みと比較しながら友だちの意見を聞くように声をかける。 ・ 穴の中で考えたごんの気持ちになって日記を書く。 ・ ごんと兵十の心の距離を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 場面の様子が分かるように音読している。 ・ ごんの様子わかる言葉から、ごんの行動や様子を読み取っている。 ・ 意見交流の中で、自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いたりしている。 ・ 本時の学習から、ごん的心情を読み、ごん日記を書いている。

10 板書計画



11 授業の視点

○考えを深め合える手段として、トリプルの話し合いの形は、有効であったか。

12 成果と課題

【成果】

・「ごんぎつね」を学習するにあたり、前の単元である「一つの花」から、文章を読み取る手段として書き込みに取り組んだ。言葉に着目し自分の考えを持つことで、一斉授業で読みを深めることへと繋がった。また、読みの力に個人差が見えるので、個に応じた手立てを取ることができた。

・毎時間学習の振り返りとして「ごん日記」を書かせた。主人公「ごん」に寄り添い、ごんの気持ちに視点をあてることで、主人公の様子や気持ちの変化を読み取ることができた。

・話し合いをする形式にトリプルを取り入れることによって、意見を聞いたり話したりすることに抵抗なく取り組める児童が増えた。

・トリプルでの話し合いでは、他の人の考えを知って違いを認めることができたり、考えを深めたりすることができた。また、クラス全体で自信を持って発表できる児童が増えた。

【課題】

- ・書き込みをすることで書いた内容にとらわれてしまい、全体で発表する際に、他の人の意見と比べて向き合わせたりすり寄せたりすることが難しい児童がいた。
- ・トリプルでの話し合いでは、積極的に話し合いを行う手段であったが、個人個人の意見を比べて対峙させたり歩み寄ったりするには、話し合う技量が相当必要であると思われた。
- ・トリプルでの話し合いから全体に広げるには、発問が正しく行われないと意見の交流が活性化されないとされた。